

組子指物

日本家屋の家具や障子、欄間などに用いられる「組子」。その手法を器や調度品に取り入れ、独自の表現で磨き上げられてきた工芸品です。

特徴的なデザインのひとつである網代文様は、竹を編む技術を参考にしてたどり着いたもので、最小で1・5ミリ角になる木片に溝やホゾを入れ、組み合わせる高い技術力が必要となります。長年、建具屋として培ってきた経験と、県外で習得した組子職人の技術が生かされているのです。

また、素材には千年以上、火山灰に埋もれていた「神代杉」などが使われ、熟練の技と共に、風土が育んだ良材が魅力を支えています。

組子の技術で表現された
工芸品の美。

ここがポイント

世代を超えて受け継がれる。

構想から完成まで、ひとつの作品に費やす時間は1年以上。制作の前段階として紙で試作品を組み上げるなど、じっくりと時間をかけます。丁寧な手仕事で、世代を超えて受け継がれる工芸品を生み出しています。

製造者／土内浦
住 所／福井県大飯郡高浜町上瀬
7-27
T E L / 0770-76-1514
F A X / 0770-76-1514

平成26年7月25日指定

